

2017年度

関西大学会計専門職大学院

入学試験問題（3月募集）

[一般入試（学力重視方式）]

## 簿記・原価計算・会計学

### 受験上の注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
- 2 試験場においては、すべて監督者の指示に従ってください。
- 3 簿記、原価計算、会計学から2科目選択し、解答してください。
- 4 問題は 6 ページまであります。
- 5 試験時間は 120分 です。  
試験開始から終了までの間、試験教室からの途中退出はできません。
- 6 机上には受験票、筆記用具、時計（計時機能のみのもの）、電卓（計算機能のみのもの）以外のものは置かないでください。
- 7 時計のアラームは解除し、また、携帯電話、スマートフォン等は必ず電源を切ってカバンにしまってください。
- 8 不正行為を行った者は試験を無効とします。

入学試験日 2017年3月5日（日）

# 簿記

---

## 問題 1

次の取引を仕訳しなさい。決算は年 1 回（3 月 31 日）とする。なお、当社は商品売買取引の会計処理については 3 分法を採用している。

- (1) 期首に営業用の自動車 ¥1,200,000 を 5 回の割賦払いで購入し、利息を含めた割賦代金 ¥1,250,000 を均等に分割し、5 枚の約束手形を振り出して支払った。
- (2) 得意先 A の倒産に伴い売掛金 ¥156,000 が回収不能になった。そのうち ¥120,000 は前期分である。なお、前期末に設定した貸倒引当金の残高が ¥350,000 ある。
- (3) 得意先 B に対して商品 ¥300,000（原価 ¥200,000）を売上げ、半額はクレジット・カードによる支払いを受け、残りは掛けとした。クレジット会社への手数料はクレジットによる販売代金の 1 % であり、販売時に計上する。
- (4) 仕入先 C から商品 ¥500,000 を仕入れ、代金の半分は約束手形を振り出して支払い、残りは掛けとした。なお、商品の搬送費 ¥10,000 は現金で支払った。
- (5) 自社利用目的でソフトウェアを ¥50,000 で購入し、代金は現金で支払った。
- (6) 長期利殖目的で D 株式会社の株式 1,000 株を @ ¥700 で取得した。なお、買入手数料等 ¥8,000 を含めた代金は、4 営業日以内に証券会社に支払うことにした。
- (7) 決算日において、(1) の自動車の 1 回目の割賦代金が当座預金から引き落とされた。
- (8) 決算日につき、棚卸しをしたところ、商品 ¥5,000 分が劣化していることが分かった。この劣化商品は値下げしても売れないと判断した。

## 問題2

以下のケースAからケースCは、ある会社の商品売買取引を3つの異なる方法で処理した結果を勘定の形式（日付と金額のみ）で示している。（ア）から（コ）に入る適切な勘定科目名または正しい金額を答えなさい。

### ケースA 分記法

商品				(ア)			
4/1	26	4/7	13			4/7	7
4/10	24	4/14	35			4/14	20
4/15	40	4/22	(イ)			4/22	12
		4/29	10			4/29	4

### ケースB 3分法

(ウ)				仕入				(エ)			
4/1	26			4/10	24					4/7	20
				4/15	40					4/14	(オ)
										4/22	34
										4/29	14

### ケースC 販売のつど売上原価勘定に振り替える方法

(カ)				(キ)				売上			
4/1	26	4/7	13	4/7	(ク)					4/7	20
4/10	24	4/14	35	4/14	35					4/14	55
4/15	40	4/22	22	4/22	22					4/22	34
		4/29	10	4/29	(ケ)					4/29	(コ)

## 問題3

解答用紙の精算表の必要な箇所に正しい金額を記入して、精算表を完成させなさい。

# 原価計算

---

## 問題 1

以下の資料に基づき、設問に答えなさい。

資料 1 当月における製造指図書別の作業時間

指図書番号	101	102	103	104	合計
熟練工	48 時間	12 時間	16 時間	52 時間	128 時間
一般工	26 時間	82 時間	74 時間	34 時間	216 時間
研修工	6 時間	26 時間	21 時間	3 時間	56 時間

資料 2

- (1) 当月の製造間接費は 1,029,280 円であった。
- (2) 賃率は、熟練工が@3,500 円、一般工が@1,200 円、研修工が@500 円である。

設問 指図書番号 102 に配賦される製造間接費を、①作業時間を配賦基準とした場合、②労務費を配賦基準とした場合、それぞれ答えなさい。なお、計算上生じる端数は、解答すべき金額を求めた後に円単位で示されるよう四捨五入すること。

## 問題 2

以下の資料に基づき、設問に答えなさい。

資料 1 当月における製品製造量

月初仕掛品 250 個（加工進捗度 40%）

当月完成品 1,050 個、月末仕掛品 500 個（加工進捗度 50%）

資料 2 当月の製造費用

材料費 37,050,000 円 加工費 8,640,000 円

資料 3 月初仕掛品

月初仕掛品 材料費 7,993,000 円 加工費 681,000 円

資料 4 原価計算方法

- ・単純総合原価計算を採用している。
- ・材料は製造工程始点で投入し、製造工程で平均的に加工され、製品が製造される。
- ・棚卸資産の評価方法は平均法を採用している。
- ・計算上生じる端数は、原価計算が完了後に円単位で示されるよう四捨五入している。

設問 1 当月の完成品原価を、材料費、加工費の内訳とともに答えなさい。

設問 2 先入先出法に変更した場合の、当月の完成品原価を、材料費、加工費の内訳とともに答えなさい。

設問 3 完成品はすべて販売されているとして、先入先出法に変更した場合、利益はいくら増額となるか答えなさい。なお、減額となる場合は、金額に△を付して答えなさい。

### 問題 3

以下の資料に基づき、設問に答えなさい。

資料 1 棚卸資産（いずれも実地棚卸を行っている）

	月初有高	当月仕入高	月末有高
素材	330,000 円	2,000,000 円	290,000 円
買入部品	620,000 円	3,000,000 円	550,000 円
補助材料	22,000 円	180,000 円	25,000 円

資料 2 その他

- (1) 工場建物の減価償却費： 500,000 円
- (2) 工場の測定器具(耐用年数 1 年未満)： 300,000 円
- (3) 外注加工賃： 1,180,000 円

設問 1 当月の直接材料費の金額を求めなさい。

設問 2 当月の間接材料費の金額を求めなさい。

設問 3 当月の間接経費の金額を求めなさい。

### 問題 4

以下の資料に基づき、設問に答えなさい。なお、計算上生じる端数は、解答すべき金額を求めた後に円単位で示されるよう四捨五入すること。

資料 1 当社の概要

当社の AS 工場では、製品 X を製造して、価格 13,500 円で販売を行っている。製品 X の製造は、まず始点で原料を投入して、機械加工を行った後で、加工進捗度 90%の段階で部品を追加投入することによって完成する。

資料 2 製品 X の原価および費用の見積データ

- ① 製品 X を 1 個製造するために、工程の始点で原料（標準価格@1,500 円）を標準で 2 kg 投入する。
- ② 製品 X を 1 個製造するために、加工進捗度 90%の段階で、部品（標準価格@200 円）を標準で 1 単位投入する。
- ③ 製品 X を 1 個製造するために、直接工(標準賃率@1,200 円)による標準 2 時間の加工作業が必要である。直接工は、加工以外の作業は行わない。
- ④ 製造間接費の配賦を行うための操業度の尺度として、当工場では直接作業時間を採用している。直接作業時間は年間 9,600 時間を予定している。
- ⑤ 工場全体の間接労務費の総額は、操業度にかかわらず年間 8,640,000 円を予定している。
- ⑥ 加工機械の取得原価は 53,760,000 円であり、耐用年数 8 年、残存価額 0 円である。

- ⑦ 電力費は、操業度に比例して、1時間につき200円が発生することを予定している。ただし製品に対する直課は行わない。
- ⑧ 工場における、加工機械の減価償却費および電力費を除いた間接経費の発生額は、操業度にかかわらず年間3,840,000円を予定している。
- ⑨ 販売費および一般管理費は、販売数量にかかわらず年間13,200,000円を予定している。

資料3 当月の製品Xの生産および販売データ

- ① 月初仕掛品：なし
- ② 当月完成品：340個
- ③ 月末仕掛品：40個（加工進捗度50%）
- ④ 月初製品および月末製品：なし

資料4 当月の原価および費用の実際発生額

- ① 原料費：1,208,000円（800kg）
- ② 部品費：76,760円（380単位）
- ③ 直接労務費：963,800円（790時間）
- ④ 製造間接費：1,800,000円

- 設問1 資料1および資料2をもとに、製品Xの原価標準について、1個あたりの①原料費、②部品費、③直接労務費、および④製造間接費の金額を答えなさい。
- 設問2 資料1および資料2をもとに、売上原価を含む費用全体を固定費と変動費に分解した場合に、①1個あたりの変動費、および②月間の固定費総額を計算しなさい。
- 設問3 資料1、資料2、および上記の設問2の結果をもとに、製品Xの損益分岐点販売数量を答えなさい。
- 設問4 資料1から資料3をもとに、標準原価計算による①完成品原価、および②月末仕掛品原価を答えなさい。
- 設問5 資料1から資料4をもとに、原料費の①価格差異と②数量差異、部品費の③価格差異と④数量差異、直接労務費の⑤賃率差異と⑥時間差異、および公式法変動予算にもとづく製造間接費の⑦予算差異、⑧能率差異（変動費と固定費の合計）、⑨操業度差異を答えなさい。なお、借方差異は（借）、貸方差異は（貸）を数値に付しなさい。
- 設問6 工程の終点で、完成品に対して5%の仕損（処分価格ゼロ）が発生していることが判明したため、原価標準の直接材料費、直接労務費、および製造間接費のそれぞれに対して、標準消費量を5%増やすことによって、正常仕損費を原価標準に含めることとした。この場合における、原料費の①価格差異と②数量差異、部品費の③価格差異と④数量差異、直接労務費の⑤賃率差異と⑥時間差異、および公式法変動予算にもとづく製造間接費の⑦予算差異、⑧能率差異（変動費と固定費の合計）、⑨操業度差異を答えなさい。なお、借方差異は（借）、貸方差異は（貸）を数値に付しなさい。
- 設問7 資料1および資料2において、上記の設問6のような原価標準の改訂を変動費だけに反映させた場合に、損益分岐点販売数量を答えなさい。

# 会計学

---

## 問題

CVP分析に関連して、下記の設問に答えなさい。

- 設問1 CVP分析の意味内容と経営管理上の特長について簡潔に説明しなさい。
- 設問2 CVP分析のために適切と考えられる原価分解に基づいて、どのような名称の原価が識別されるか、そして識別された原価の内容が何であるかを、それぞれ説明しなさい。
- 設問3 前述の原価分解を行うための方法の名称をできるだけ多く挙げて、それぞれの内容を説明しなさい。